

スポーツ健康学科教育方針とカリキュラムモデル

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

- ①高い倫理観と幅広い教養およびスポーツ健康科学分野における専門的知識・技能 ②探求し続けるための生涯学習力 ③課題発見・設定し、解決する力。わかりやすく表現する力 ④協働して問題解決するためのチームワークやリーダーシップ ⑤自らを律しながら、主体的・計画的に行動する力 ①～⑤の能力を身につけた学生に学位を授与する。

4年次の目標

これまでの学修によって培われた能力を活用して卒業研究をまとめ、ディプロマ・ポリシーで示された能力を最大限に高める

取得可能資格

保健体育教員 日本スポーツ協会指導者資格 JATI

取得可能資格

養護教諭 健康運動指導士 健康運動実践指導者
第一種衛生管理者 社会福祉主事任用資格

スポーツ領域

スポーツ健康学士

健康領域

教育実習(保健体育)

卒業研究演習Ⅲ・Ⅳ

養護実習(養護)

空手・古武道概論

トレーニング論演習

卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ

看護臨床実習Ⅰ・Ⅱ

地域ウェルネスプロジェクト

コーチング演習

海洋スポーツ演習

動作学演習

スポーツ心理学演習

健康産業施設等現場実習

グローバルヘルス

労働衛生学概論 労働法規Ⅰ・Ⅱ

スポーツマネジメント

体力・健康測定と評価

生理学・運動生理学演習

衛生学・公衆衛生学演習

運動負荷試験

養護概説 学校救急看護学
健康相談活動の理論及び方法

球技論

スポーツ史

スポーツ指導論

スポーツ栄養学

スポーツ障害と予防

運動処方論

医学一般Ⅱ

柔道

剣道

空手

舞踊

琉球舞踊

エアロビクスⅠ・Ⅱ

安全管理論および方法

野外教育論

レジャー・レクリエーション論

精神保健

レクリエーション実技

テーピング・マッサージ

スクーバダイビングⅠ・Ⅱ

ウインドサーフィン

スポーツバイオメカニクス

免疫学 病理学 薬理概論

バスケットボール バレーボール サッカー

体育心理学 体育社会学

心の健康 健康心理学

ハンドボール 卓球 ソフトボール

コーチ学 トレーニング論

学校保健

看護学Ⅱ

社会福祉援助技術

スキー・スノーボード

ゴルフⅠ・Ⅱ

看護学Ⅰ

障害者・高齢者福祉
児童福祉

体づくり運動 器械運動 陸上競技 水泳

教職科目
(保健体育)

体育原理 運動学

専門基礎科目
医学一般 解剖学 生理学・運動生理学
衛生学・公衆衛生学 栄養学 社会福祉概論
救急処置 生涯スポーツ論 ウェルネス概論 人体機能学
スポーツ健康学総論 スポーツ健康演習 発育発達学

インターンシップⅠ・Ⅱ

スポーツ健康学特別講義
スポーツ健康学特別実技

教職科目
(養護)

全学教養科目 共通選択科目(外国語・国際理解・人文科学・社会科学・自然科学)

全学教養科目 共通コア科目(アカデミックスキル・ライフデザイン・思想と倫理・沖縄理解・健康スポーツ)

ゼミ制

2年後期にゼミ選択

2年次の目標

人間を多角的に理解し、
体育・スポーツ、健康の
基礎知識・技能を身に
つける

2年前期に領域選択

1年次の目標

大学生として幅広い
教養と社会性を身に
つける

クラス制

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

スポーツ健康学科の教育目標を達成するために、本学科に入学を希望する人には以下のことを求めます。

- ①豊かな個性と強い学習意欲を有し、主体的に取り組む姿勢を持っていること。②基本的な学習スキルを活用し、他者との対話や議論を通して、現代社会の課題を理解・分析したうえで、自らの考えを多様な方法で表現できること。③スポーツ健康学科の特徴を正しく理解し、高等学校教育における教科を全般的に修得していること。また、スポーツ健康科学に必要な保健および体育の内容について基礎的・基本的な知識および技能を身につけていることが望ましい。④健康を科学的視点から探究し、地域社会や国際社会において健康づくりを支援する意欲があること。⑤スポーツ科学や健康科学に興味・関心があり、大学においても習慣的な運動や健康づくりの意欲があること。